



# 新年のご挨拶

核融合科学研究所長  
小森 彰 夫

皆様、あけましておめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

日頃より核融合科学研究所の活動にご高配を賜り、また種々のご支援ご協力をいただいておりますことに大変感謝申し上げます。お陰をもちまして、研究所の研究活動は、大型ヘリカル装置を中心とするプラズマ物理実験、理論・シミュレーション科学に基づく数値炉実験、核融合発電炉設計・炉工学等の分野でそれぞれ順調な進展を見せており、これからも、大学等を中心とする多数の国内外の共同研究者の方々とともに、大学共同利用機関としての務めを果たしつつ、他の分野への研究成果の発信を積極的に進め、プラズマ・核融合分野の研究の発展のため、そして我が国の学術の振興のため最大限の努力を続けてまいります。よろしくご支援のほどをお願い申し上げます。

研究所は、昨年3月28日、土岐市文化プラザで、岐阜県、土岐市、多治見市、瑞浪市と、「核融合科学研究所周辺環境の保全等に関する協定書」及び「核融合科学研究所周辺環境の保全等に関する覚書」を締結しました。締結式には、古田肇岐阜県知事、加藤靖也土岐市長、

古川雅典多治見市長、水野光二瑞浪市長にご出席いただきました。協定書と覚書の締結に引き続き、岐阜県知事、三市市長から、重水素実験開始の同意書にご署名をいただきました。締結式後の挨拶で、研究所は、協定書・覚書を遵守し、安全性を最優先に、皆様と関係自治体のご理解を得つつ、安全で環境に優しい核融合エネルギーの実現に向けて、研究を行っていくことを約束しました。これまでの皆様のご理解とご支援に感謝いたしますとともに、今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

文部科学省は、平成25年度から、新しい試みとしてURA(University Research Administrator)制度を導入しました。全国の大学から、自然科学研究機構を含む22大学が選ばれ、既に実施されています。補助金による10年の期限付きですが、5年目に評価を行い、評価に基づいて入替えを行うとのことです。URA制度は、一言で言いますと、研究支援制度ですが、URA制度をどのように構築するか、どのように活用するかは大学に任されています。自然科学研究機構では、「世界最高水準の自然科学研究」と「世界最先端の共同研究で大学の研究力強化」の2つを目標に、「先端研究推進」、

「共同研究活性化」、「発信力強化」、「研究者支援」を4つの柱としてこの事業を推進することとしました。このため、機構本部に「研究力強化推進本部」、各機関に「研究力強化戦略室」を新たに設け、これを機構長の下で「研究力強化戦略会議」として一体的な運営を始めています。機構本部にCRAs(Center Research Administrators)が置かれ、機構全体としての活動の企画・立案、国際連携、大学・研究機関との連携、自然科学系ネットワークの構築を担当、また、各機関の研究力強化戦略室に、DRAs(Division Research Administrators)が配置され、各自然科学研究分野における共同利用・共同研究の環境整備と研究者支援、研究力強化を担当しています。

研究所では、機構本部の決定を受け、副所長を室長とする「研究力強化戦略室」を設置し、企画戦略力、若手研究力、共同研究力、広報力の強化を図ることとしました。具体的には、上述の4つの強化対象のうち、後者3つのチームリーダーをDRAの3人に務めてもらう予定です。研究力強化戦略室を活用するには、既存の組織に上手く組み込む必要があります。このため、組織を改組する必要があり、改組手続が終わってから、研究力強化戦略室を正式に発足させる予定です。

研究所は、核融合発電の早期実現に向け、長期的視野に立って、関連する様々な物理・工学分野と連携しつつ、核融合研究を着実に推進しています。核融合発電の実現にあたっては、安全の確保が何よりも重要であり、核融合の持つ本質的に安全な特性を活かして、安全性を更に深化させた、リスクのない発電所の

建設を目指しています。また、こうした核融合研究の意義や安全性について、広く市民の皆様も認識を共有していただくことが、核融合発電の実現に最も必要なことであり、必須の要件と考えております。このため、研究所は、研究活動だけでなく、市民の皆様を対象とした学術講演会や核融合発電の必要・安全性と研究の現状についての広報活動などを行っています。また、オープンキャンパス、フュージョン・フェスタ in Tokyoのような広報活動、工作教室などによる理科離れを防ぐ活動への協力、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業への協力活動などを積極的に行っています。これらの活動にも、URA制度を上手く活用して、広報力を大幅に強化したいと考えています。

二酸化炭素による地球温暖化の影響が、近年、大型台風が発生して各地に大きな被害をもたらしています。また、日本でも夏と冬しかない気候に変わっていくような感が有ります。人類が末永く生存できるよう、核融合発電を早期に実現し、地球環境の保全に寄与したいと考えております。最後になりましたが、皆様のご多幸をお祈りするとともに、核融合科学研究所への益々のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

